

# 玉野市立宇野中学校

児童生徒数 394名 ・ 学級数 15学級 ・ 教職員数 42名 (平成26年6月2日現在)

## ○取組実践のキーワード

学習習慣の確立

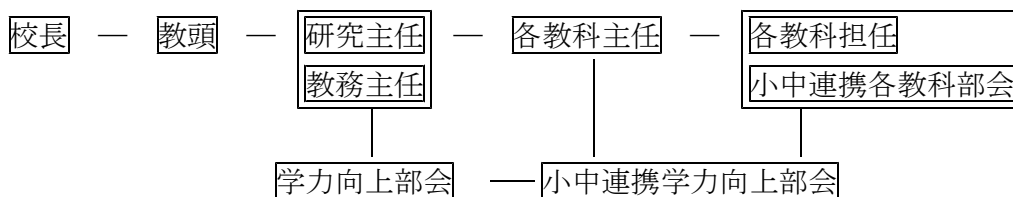
## ○標題 (研究主題)

小中連携による家庭学習の定着に重点を置いた取組

## ○取組を始めた経緯

学校評価アンケートによると、個に応じた家庭学習の工夫や家庭学習の習慣付けを、学校・保護者が協力して行ったと回答した生徒の意識は高まりつつある。保護者も家庭連絡表等の活用で、評価を指導に生かしていると感じているが、まだまだ十分とは言えない。「保護者用家庭学習のススメ」等を利用し、保護者に「学力」の重要性を訴え、小中連携の下、一層の家庭学習充実に向けた取組が重要であると考え、取り組むこととした。

## ○取組の実施体制



## ○学力向上に向けた具体的な取組

- ・ 小中連携の学力向上部会を中心として、昨年度の2学期より、中学校区で「家庭学習強化週間」の取組を行っており、個に応じた家庭学習の工夫や家庭学習の習慣付けを図っている。
- ・ 中学校区での「家庭学習強化週間」は中学校のテスト週間とし、5/15～22, 6/25～7/3, 10/21～28, 11/21～12/1, H27 2/24～3/4の5回とする。
- ・ 各校で取組期間中の学習時間やテレビ視聴時間を集計し、学力向上部会での成果や課題の検証の資料とし、PDCAサイクルにより継続して実施する。
- ・ 保護者向けの家庭学習リーフレット（玉野市教育委員会・本校作成）を配布し、家庭生活のより良い過ごし方とともに啓発を進める。
- ・ 「保護者用家庭学習のススメ」や「家庭内外でのマナー・ルールチェック表」などを活用し、家庭学習の習慣付けや家庭での生活習慣の向上の大切さを理解し改善を図ってもらう。また、新入生保護者説明会や懇談会でも配布し、家庭の生活習慣が学習成績にも大きく関係していることを保護者にも十分理解してもらう。
- ・ 本校作成の「学習ガイド」の家庭学習の項目を検討し、具体的なアドバイスを提示する。家庭で、宿題だけでなく、予習・復習・自主学習に取り組む習慣付けを家庭と協力して行う。また、教科によっては、計画的な家庭学習に取り組めるよう、提出物の年間計画を配布する。
- ・ 学校評価にも「家庭学習の充実」等の項目を設け、家庭での評価も願う。

## ○現在までの取組の成果と課題

### 1 成果

- ・ 担任が学習計画表を毎日確認することにより、生徒の学習に対する意識も高まった。
- ・ 定期考査Ⅰ（5/15～22）の集計  
（3年生はまだ集計結果が出ていない）

学年	学習	テレビ	ゲーム
1年	3. 0時間	1. 0時間	0. 4時間
2年	3. 3時間	1. 0時間	0. 7時間

- ・ 授業の最後にプリントなどの課題を学習させて、家庭学習に対する意欲を高め（ツァイガルニック効果を期待して）、次の授業の初めに復習をすることで家庭学習の習慣付けになった。また、「効果的な宿題の出し方の工夫」の研究としても役立っている。
- ・ 保護者からは小学生の弟や妹も、同じ時期に家庭学習に取り組やすいと好評価を得ている。

### 2 課題

- ・ 提出物を出すことだけで、テスト勉強が終わっている生徒が多いので、日頃から定期的に課題を出すような工夫（週末課題など）も必要である。
- ・ テスト勉強の仕方についても各教科で指導する必要がある。
- ・ 家庭学習強化週間をノーメディア週間として、テレビ・ビデオ・音楽・携帯などによる、いわゆる「ながら勉強」をしないことも盛り込んだ取組を考えており、各週間ごとにデータを集め、指導に生かすことにしているが、家庭によって協力を得られにくい場合もある。
- ・ 各教科での統一したプリントやワークで課題を見直し、各生徒が自分の能力に合った課題を見つけて自主学習として取り組める工夫を行うこと。

## ○取組の継続・発展の要因

- ・ 家庭との連携が必要なので、「家庭連絡票」（毎月発行）や「成績のあゆみ」（各テスト後）などを通して、コミュニケーションを図るようにする。例えば、家庭連絡票の保護者からのコメントに対して、こまめに文章で返すなどの日頃からの連携が大切にする。
- ・ 家庭学習の重要性を理解させ、計画を立てて実施することが習慣になるように、継続的な指導を行う。また、保護者にも理解してもらい、協力を仰ぐ。

## ○管理職・中核教員等のアクション

- ・ 家庭学習の定着・基礎学力の向上につなげるために、各教科担当者に「宿題を見直していこう」の取組として、各自の実践や過去に取り組んだ内容例などを出し合い、各教科で実践を行い、効果的な家庭学習の推進に生かせるようにする。
- ・ 家庭学習を全然していない生徒がいるので、少しでもできるように学校通信・学年通信、あるいは、懇談会・家庭連絡表などを通じて家庭にも働きかける。